



10月28日から11月4日までの8日間、韓国^{チャンウォン}の昌原市で開催された第10回ラムサール条約締約国会議関連行事に、中貝市長をはじめ市内の小学生やNPO(民間非営利団体)のメンバーが参加しました。ラムサール条約に関する豊岡市の動きと合わせてお知らせします。
 《問合せ》コウノトリ共生課 ☎21-9017

第10回ラムサール条約締約国会議(韓国)で

豊岡の取組みをPR!



「ラムサール条約」って?

正式名称は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」と言います。自然資源の保全と持続可能な利用に関する初の国際条約と

して、1971年にカスピ海(イラン)沿岸の都市ラムサルで採択されました。湿地の「保全」と「賢明な利用(Wise Use)」が基本原則になっています。

「締約国会議」って？

条約を締約している国々により、定期的に会議が行われます。

日本は1980年に条約に加入し、釧路湿原を最初に登録しました。今回の会議には、160カ国から約2千人が参加しました。

なぜ、豊岡から参加したの？

市では、コウノトリの生息地である円山川下流域を中心とした湿地を、ラムサール条約湿地に登録したいと考えています。

隣国で行われる締約国会議の機会を捉え、関連行事で豊岡の取組みをPRしました。

登録による効果は？

・ 国際的に重要な湿地として認められ、世界にアピールすることができま

す。国内、世界との学術的な交流や人的交流が進みます。

・ 観光資源として付加価値が得られます。



子どもたちが……!

城崎小学校5年生3人、小坂小学校6年生2人の計5人が「KODOMOラムサールin韓国」に参加し、日本や韓国で湿地の大切さを学ぶ子どもたちと、互いの取組み発表や交流を行いました。



市長が……!

中貝市長が、締約国会議に係る要人と面談するとともに、会議中に開催された関連行事においてプレゼンテーションを行い、豊岡の取組みをPRしました。(関連記事11ページ掲載)



▲中貝市長(左)・慶尚南道の知事(右)



●NPOが……!

NPOコウノトリ湿地ネット(城崎町戸島)のメンバーが「世界NGO湿地会議」の議論に加わるとともに、ポスターやパンフレットでコウノトリの取組みをPRしました。



※NGO…非政府組織

条約湿地登録に向けて

生物多様性を支える湿地が乱開発などにより世界規模で減り続けている中で、コウノトリ野生復帰や災害復興の過程で湿地を保全・再生・創造し、賢明に利用しようとする豊岡の取組みは、異彩を放っています。

人と自然の共生の歩みを世界に示すためにも、豊岡はラムサール条約の輪に加わりたいと考えています。理解と応援をお願いします。

関連情報 湿地を整備中です

円山川下流域におけるコウノトリ生息地の核となる「ハチゴロウの戸島湿地」(城崎町戸島)の整備工事が進行中です。今年度内の完成を目指しています。

